

致造お印

13

(六左衛門上手の藤村からとぼくとお立場。魚玉
 下げてゐる。ちつと立ち止つて縁側の方を見おろす)
 藤川 御恩返しと [] したつと思へばこそ [] 結
 構お上り [] 結構お普請を [] して [] お渡しした
 いと思ふの [] 結構お [] 結構お []
 それかけお金のかけりです。さあ、先生お搭
 り起して下さい。
 光子 旦那さまと [] その御病人さま。
 藤川 旦那さまと [] 一本のお手紙を書い
 ていた川さだいのです。東京の竹世山 [] にね。こ
 れくで大工の方から金の請求の [] あり。至急五百
 円貸して下さいね。 [] 大し今夜八時の汽
 車 [] のお手紙を持って東京へお帰りの行きます
 す。
 光子 かつて竹世山先生にはもう [] 度目
 の手紙よ。いと [] 何かつて竹世山先生に [] 金の無
 心ばかり。
 藤川 ちや、何かお宅さまに [] 結構お雅
 邦の [] とか何とかいふ [] のお [] する [] ねえん
 か。

竹世山の []

MARUZEN

目

